

- 問1 群馬県婦恋村などの標高が高い地域では、夏の平均気温が20度前後と、都市部と比較して非常に低くなっています。この冷涼な気候を活かして、夏から秋にかけてキャベツなどの野菜を栽培する農業の形態を何といいますか。 (2019年 滋賀県公立入試 類似)
1. 近郊農業                      2. 高冷地農業                      3. 施設園芸                      4. 促成栽培
- 問2 多くの過疎地域が、単なる建物の建設や道路の整備といった公共事業だけでなく、移住支援や観光客の誘致に力を入れている理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2016年 香川県公立入試 類似)
1. 高齢者の居住エリアを一箇所に集約し、福祉サービスを完全に廃止するための準備として                      2. 土地の価格を大幅に上昇させ、既存の住民が土地を売却して都市へ移住しやすくするため                      3. 将来的にその地域を無人化し、広大な自然保護区へと転換することを最終目標としているため                      4. 地域の雇用や産業を創出することで、持続可能な形で若者の定着や新しい人の流れを生むため
- 問3 ある地域の産業構造を分析する際、産業全体の「製造品出荷額」を「事業所数」で割ることによって算出される指標があります。この指標を用いることで、各産業についてどのような実態を把握することができますか。最も適切なものを選んでください。 (2020年 愛知県公立入試 類似)
1. 産業全体の二酸化炭素排出量                      2. 地域全体の労働者不足の深刻度                      3.                      4. 製品1つあたりの販売価格の高さ
- 1事業所あたりの平均的な生産規模
- 問4 各地方の農業生産額の内訳において、東北地方では米の占める割合が非常に高い一方で、関東地方では「野菜」の生産額が高い割合を占めています。関東地方でこのような傾向が見られる主な理由として、正しい説明はどれですか。 (2026年 福岡県公立入試 類似)
1. 冬でも温暖な気候を利用して、他の地域よりも出荷時期を早める抑制栽培が行われているから。                      2. 広大な土地を活かして、大型機械を用いた効率的な大規模稲作が行われているから。                      3. 大都市という巨大な消費地が近くにあるため、新鮮さが求められる農産物の生産が盛んであるから。                      4. 冷涼な気候に適した、りんごやさくらんぼなどの果実栽培に特化しているから
- 問5 過疎化が進む地域において、町役場、漁師、農家などが連携し、地場製品の開発や生産に取り組む活動が行われています。この地域における統計で、加工食品の売上高が右肩上がりに推移し、それに関連する事業所数や従業者数も増加傾向にある場合、この取り組みが目指している主な効果として最も適切なものはどれですか。 (2023年 福岡県公立入試 類似)
1. 海外からの安価な原料を輸入し、地元のブランド名を使って加工・販売を行う。                      2. 観光客の増加のみを目的として、地場製品の加工を制限し景観の保全に専念する。                      3. 都市部から大規模な工場を誘致することで、一次産業に頼らない経済構造を作る。                      4. 地域の関係者が協力して新たな産業を育て、地域内における雇用を創出する。
- 問6 日本は環太平洋造山帯に位置し、多くの火山が存在しています。このような地形的特徴を活かし、地下深くにある熱エネルギーを蒸気として取り出してタービンを回す発電方法を何といいますか。 (2019年 神奈川県公立入試 類似)
1. 火力発電                      2. 原子力発電                      3. 地熱発電                      4. 水力発電
- 問7 1950年から2010年までの日本の発電電力量の変化について、発電方式ごとの特徴を述べた文として正しいものはどれですか。 (2024年 高知県公立入試 類似)
1. 2000年代に入ると、核融合発電の実用化により、火力発電の割合はほぼゼロになった。                      2. 1980年代には、原子力発電による発電電力量が水力発電を上回り、火力発電に次ぐ重要な電源となった。                      3. 1950年代から一貫して水力発電が日本の総発電電力量の8割以上を占め続けている。                      4. 高度経済成長期を通じて、豊富な森林資源を利用したバイオマス発電が火力発電に代わって主流となった。
- 問8 1960年代における大都市圏への人口集中と、それにとまう社会の変化について述べた文として、背景や因果関係が最も正しいものはどれですか。 (2024年 群馬県公立入試 類似)
1. 都市部における工業地帯が縮小したため、工場跡地を利用した大規模な公営住宅の建設が全国で一斉に始まった。                      2. 地方での過疎化によって住宅が余ったため、大都市に住んでいた人々が住環境の改善を求めて地方へ大量に移住した。                      3. 工業化の進展により都市部で働く労働力の需要が高まり、流入した人々の住環境を確保するために郊外の開発が進んだ。                      4. 第一次産業の機械化が進んだことで、農村部での雇用が急増し、都市部から農村部への人口移動が社会問題となった。
- 問9 新潟県（8.1%）、北海道（6.6%）、秋田県（6.3%）の3道県が収穫量シェアの上位を占めている作物の特徴と生産背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2021年 愛知県公立入試 類似)
1. 「ばれいしょ」の統計であり、冷涼な気候と大規模な畑作に適した機械化農業が行われている。                      2. 「肉用牛」の統計であり、都市部への出荷に有利な近郊農業として発達している。                      3. 「米」の統計であり、広大な平野と冬の積雪による豊富な水資源を活かした大規模な栽培が行われている。                      4. 「みかん」の統計であり、温暖な気候と水はけの良い傾斜地を利用した栽培が行われている。
- 問10 日本の雇用情勢の変化において、女性と高齢者の就業率が上昇している背景にある社会的な課題と、その具体的な変化の組み合わせとして正しいものを選択してください。 (2024年 長野県公立入試 類似)
1. 高齢化が進んだことで介護に従事する若者が増えたため、60代の高齢者の就業率は2000年と比較して横ばいとなっている。                      2. 景気の拡大により若者の労働者が余ったため、女性や高齢者は以前よりも低い就業率で推移するようになった。                      3. 人口減少を食い止めるために専業主婦世帯への支援が強化された結果、女性の就業率は2000年よりも大幅に低下した。                      4. 深刻な労働力不足を補うため、30代女性の就業率が大幅に上昇し、同時に60歳から64歳の男性の就業率も2000年より向上した。
- 問11 日本の人口構成の推移において、1930年には36.6%を占めていたものの、2010年には13.2%までその割合が大幅に低下した、0歳から14歳までの年齢層を指す名称として適切なものはどれですか。 (2015年 長崎県公立入試 類似)
1. 老年人口                      2. 非労働力人口                      3. 年少人口                      4. 生産年齢人口
- 問12 1980年代半ば以降の日本の自動車産業に関する統計において、国内での生産台数が横ばいであるのに対し、外国に工場を建設して現地で組み立てを行う割合が急増しています。このような生産形態を何と呼びますか。 (2025年 岐阜県公立入試 類似)
1. 海外生産                      2. 輸入促進                      3. 加工貿易                      4. 地産地消